

World Watching 74

ワールド・ウォッチング



椿 博行

東亜建設工業株式会社
エルサルバドル、
ラウニオン港建設工事事務所長

中米エルサルバドルで進む ラウニオン港の 開発



エルサルバドルってどんな国

宗主国であったスペインからの独立は、1821年と古く、“救世主”という意味をもつ立憲共和制の国、エルサルバドル共和国。しかし、1980年から1992年まで内戦があり、死者8万数千人を出したという苦い歴史も有し、国内にはまだその傷跡が残されている。

緯度はフィリピンのマニラと同程度で太平洋にのみ面し、熱帯性気候で一年中暑く、面積は四国と同程度の約2万km²、人口は664万人（首都サンサルバドルの人口は50万人で、尚全人口中90%近くがスペイン系白人と先住民族の混血であるメティソである）と中米の国の中でも小さい方である。主要な産業は、繊維などの軽工業とコーヒー、砂糖等の農業であるが、実質の外貨収入源は150万人と言われる米国への出稼労働力による送金といわれている。



ラウニオン港開発プロジェクト

エルサルバドルの東部に位置するラウニオン港は、綿花、砂糖、コーヒーの輸出のための港湾として、1916年に栈橋が建設され、1955年に拡張されたが、老朽化の為に1996年に閉鎖された。近くには、コルサインというマグロ缶詰工場専用栈橋および海軍用の施設はあるものの、一般共用栈橋はなく、域内物資は約240km離れたアカフトラ港等を利用せざるを得ない状況にあった。この栈橋施設は閉鎖されたまま放置さ

れていたが、これら栈橋や護岸は、当プロジェクトにより撤去された。

今般、国際協力銀行（JBIC）の資金援助により、中米8カ国の域内及びアジアなどへの物流拠点としての国際貿易港の建設と、内戦のために開発が遅れていた東部地区の再開発の礎として、「同国東部のラウニオン港」の再開発に着手するに至った。同国には、既に太平洋に面してアカフトラ港という貿易港があるが、増加する荷役を処理しきれなくなったことも、再開発のもうひとつの目的である。ラウニオン港については、天然の良港という自然条件に加え、近隣諸国に近いという立地条件から、将来貿易のみならず、投資や文化交流などのゲートウェイとしての期待も高い。同地区へは、首都であるサンサルバドルから、日本の援助などにより、高規格の道路が建設されており、当面アクセスについては、問題にはならないとの観測である。一方、地元は、域内事業活動の活性化や雇用促進に対して大きな期待をいだいており、現在の零細漁業から港湾を軸とした工業地域への脱却への期待は大きく、既にホテル建設や投資用地の買収が始まっている。



建設の進捗と苦勞

港湾計画は、日本政府の技術援助のもと1998年にマスタープラン、フィージビリティ・スタディが行われ、2015年に見込まれる一般貨物で84万トン、コンテナで27.5万TEUを処理するた

め、コンテナ埠頭1バース、多目的埠頭1バース、旅客埠頭1バースなどが盛り込まれている。

2005年4月28日に工事が開始され、36ヶ月後の2008年に竣工する予定である。現場乗り込みから1年以上が経過したが、その間、日本での船舶機械の調達（主要船舶はケーソン製作用の浮きドック2隻）太平洋を横断してのリフトバージによる船舶機械の輸送、仮設栈橋建設、既設栈橋の撤去、トレーラー船/グラブ船による岸壁、護岸及び埋立予定地内の軟土浚渫、現場内の丘陵地掘削埋め立て、ケーソン製作と完工日厳守を目指して、工事を進めている状況である。

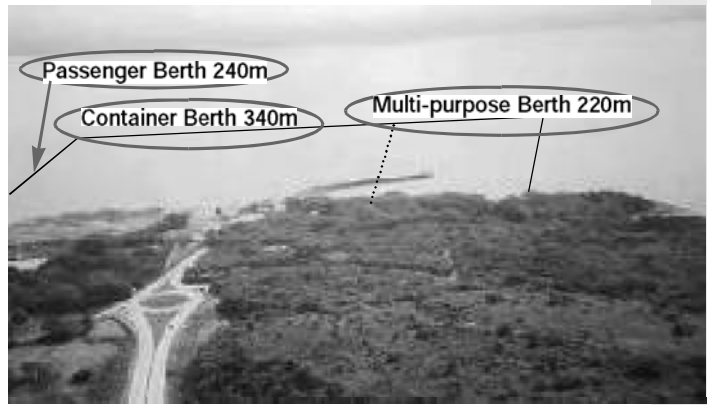
入札時の施工計画書に6,000トンのケーソン製作能力を持つ浮きドックを使用してケーソンを製作するとしていたが、実際には、施工の効率化とリスク排除の目的もあって、3,000トン能力の浮きドック2隻を用いてケーソン製作することとした。発注者（CEPA：エルサルバドル空港・港湾運営自治委員会）よりは、その変更を容認しないという考えもあったが、最終的には当方の考え方について、了解を得ることができ現在に至っている。

内戦は1992年に終了し、反政府軍代表も国会議員として選ばれるなど表面上は平和的に見えるものの、治安には未だ問題があり、宿舎、現場の警備、防護対策を厳重に行い、夜間の町への外出禁止をしている。

技能者確保の難しさ

エルサルバドルの技能工、熟練工、一般労務者は、世界の色々な国の労務者を見てきた中では力が強いし、ものすごく良く働く。現在エルサルバドルは350人位常時現場で働いているが、皆一様に勤勉である。特にケーソン製作は、今回スリップフォーム工法を採用しているため、連続拘束時間が多く、ケーソン製作中は12時間交代制、7日間位連続でコンクリート打設と鉄筋組み立てが続くが、夜間といえども、影で休んでいる労務者がいないというのは驚きに値する。このことは、エルサルバドルの国民性なのか、はたまた雇用条件によるのかは定かではないが、失業率も6~7%と異常に高いというわけではない。

労務者に比して、エンジニア、スーパーバイザーで英語が話せて書ける人を雇用しようとしているが、給与が非常に高い割には、中々これと言った優秀な人に出会うことができていない。当国の国語はスペイン語で域内はすべてス



ラウニオン港建設現場の現状と将来計画



仮設栈橋に係留したFDでのケーソン製作（沖合いに完成函に係留）

ペイン語圏であることから、英語を知らずとも不自由しないというのが大きな理由ではないかと想像する。しかも、彼らの離職率は非常に高く最初に雇った人は殆ど残っていない。これはキャリアを重ねてゆくという欧米型の雇用システムによること以外に、現場のあるラウニオン市（人口5万人）が首都から200kmも離れており、車で3時間もかかるような田舎の町だからと言う理由もあるかもしれない。ただし、この地域には、南米へ移民した日系2・3世で、日・西語に堪能な技術者がいて、彼らは日系建設業で働いた経験もあり、重宝がられている。

将来計画

ラウニオン市では、港湾背後地の工業地帯化へ向けて、石炭火力発電所建設、LPG精製工場建設の計画を策定中である。また、わが国政府主導のラウニオン都市再開発計画調査等もあり、将来的には、ラウニオン港を中心とした、ラウニオン（エルサルバドル東部地区）の開発は進むことになるだろう。

また、隣国のグアテマラでは、ケツアル港で水深16mのコンテナ岸壁への改修計画が具体化しているため、本港でも増深の計画が検討されているようである。いずれにしても本港を予定通り建設して、港湾間の競争力を高めてゆくことが肝要であろう。